

甲斐市議会改革特別委員会会議録

1. 開催日時 平成27年5月13日

2. 招集場所 甲斐市役所会議室A

出席委員（7名）

委員長	長谷部 集 君	副委員長	清水 正二 君
	赤澤 厚 君		米山 昇 君
	池神 哲子 君		保坂 芳子 君
	樋泉 明広 君		

議長 有泉 庸一郎 君

欠席委員（なし）

傍聴議員（なし）

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	武川 訓	書記	山岡 広司
書記	有野 恵里		

議題

- 1 対話集会の検証について
- 2 その他

開会 午後 1時30分

○書記（山岡広司君） 改めましてこんにちは。

きょうは議会改革特別委員会ということで、今年度初めてということになりますので、よろしくをお願いします。

内容につきましては、平成26年度に下今井地区で行いました対話集会の検討、また、今後の対話集会についてということで、ご論議のほう、お願いをしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、長谷部委員長より挨拶をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○委員長（長谷部 集君） 改めましてこんにちは。

大変ご多忙の中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。今月に入りまして、クールビズということで、クールビズなので、見た目どおり、人一倍暑がりなものですから、上着抜きでもできますので、皆さんもぜひ脱いでいただいて、前任の委員長同様、この委員会はざっくばらんに意見を言い合えるような、そういう会議にしたいということで、上着も着ず、飲み物も飲みながらやれるということですので、改めまして、そんな雰囲気でもやりたいということもお願いをしたいと思います。

先ほど話がありましたとおり、きょうは対話集会の最終的な検証ということがありますので、また今後に向けてのことも、皆さんのご意見を伺いたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

以上で挨拶といたします。

○書記（山岡広司君） それでは、続きまして、有泉議長より挨拶をいただきたいと思います。

よろしくをお願いします。

○議長（有泉庸一郎君） 議会改革特別委員会をですね、対話集会以降、目立った活動もできず、いろいろな、選挙等がありましたので、またメンバーも多少入れかわった部分もありまして、先ほども委員長のほうから言われましたように、この議会改革特別委員会は、市民との接触をできるだけやって、議会の活性化に生かしていきたいという趣旨で始まっていますので、ぜひまた、活動も、これで当然、終わりではありませんので、この間の選挙を見ましても、県議会とはいえ、投票率の状況は皆さんもご存じのとおりだと思いますので、ぜひ、この委員会を中心にして、議会と市民の触れ合いというか、もっと身近になるようにご努力

いただければありがたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○書記（山岡広司君） ありがとうございます。

それでは、早速議事のほうに入っていきたいと思います。進行につきましては、長谷部委員長のほうで進めていっていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○委員長（長谷部 集君） ただいまの出席委員は7名であります。定足数に達しておりますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

それでは、本日の会議を開きます。

○委員長（長谷部 集君） まず初めに、（1）対話集会の検証についてを議題といたします。

平成26年度の市民と議会の対話集会、下今井地区の報告書について、前回の委員会で中身のほうをご提供いただきまして、そのときもご意見をいただいたんですけども、一度持ち帰っていただいて、各会派のほうでも話をしていただいて、最終的に本日集約をする流れになっております。

ここで、特段何かありましたら、挙手をいただいて意見をお願ひしたいと思いますが、何かございますでしょうか。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） うちの会としては、一応、2回ですけれども、基本的に、これからはうちの会としては、ああいう地域へこっちのほうから出向いて行って、いろいろな、少人数でもいいから、やっぱり地域へ出向いて行って、今後続けたらどうかというような意見も出たので、その辺も、ぜひさせてもらいたいという形で、うちの会として意見です。

以上です。

○委員長（長谷部 集君） ありがとうございます。委員の皆様方、または会派で話をされて、下今井地区の報告書について何か、訂正したほうがいいのか、内容が違っているようなことがありますか。大体これでよろしいということで、いいですか。

それでは、下今井地区の報告書につきましては、特段、変更箇所等、意見がないようですので、今お手元に配ってあるこの報告書のとおり、これで完成形という形にしたいというふうに思います。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（長谷部 集君） 次に、議会改革特別委員会から総務教育常任委員会のほうに検討事項の申し入れを行っております。それは、下今井地区の対話集会で出た通学路と横断歩道の件について、総務教育常任委員会のほうに申し入れをしております。そこで、先月、4月28日の総務教育常任委員会におきまして、小学校の通学路等、状況把握をするに当たり、当局に状況等の報告をしてもらい、討議をしていただきました。次回の常任委員会で最終的にその件についてはまとめるという予定となっております。そこでまとめていただきましたら、今度は議会改革特別委員会のほうに回答をしていただいて、6月の定例会のときに全員協議会でそのことを報告し、その後、議長により区長に電話報告をするという流れでいきたいというふうに思っております。

最終的な報告については、下今井地区でやっていますので、その地区の区長さんのほうに報告をするというところで報告が完了しているのかなというふうに考えておりますけれども、今お話ししたような流れでよろしいでしょうか。何かご意見があれば。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（長谷部 集君） それでは、その件につきましても、6月の定例会のときに全員協議会で皆さんにご報告をし、その後、区長に報告をするということで行きたいと思えます。

○書記（山岡広司君） 委員長、報告していいですか。

○委員長（長谷部 集君） はい。

○書記（山岡広司君） 今の件で報告なんですけど、皆さんのほうに資料が行っているかと思えますけれども、まず、写しということで、委員会での検討事項に関する申し入れの件ということで、前回の議会改革特別委員会から総務教育常任委員会へこの件についてお願いするということで、長谷部委員長名で三浦委員長にこういった形で申し入れをさせていただきましたので、写しをとらせていただきました。これについては、前回の総務教育常任委員会のほうにも写しということで資料をつけております。

先ほど委員長が言いましたように、それぞれ横断歩道と通学路の問題で、それぞれの執行側ということで、市民活動支援課と教育総務課に来ていただきまして、説明を受けたところであります。

内容については、地図がついているこちらが市民活動支援課の報告ということで、ここを読んでいただければ、このような報告をしたということで、お願いをしたいと。あと、教育総務につきましても、総務教育常任委員会の報告書をつけておりますけれども、こちらの後ろのページになりますが、ページ数でいきますと14ページから、それぞれ説明等、こちら

のほうに報告されておりますので、こちらを参考に見ていただいて、次回の改革委員会までには総務教育常任委員会から報告書が上がってきますので、それを見ながら最終的に検討して、全員協議会のほうに報告という形をとりたいと思いますので、よろしく願いをしたいと思います。

以上、報告とさせていただきます。

○委員長（長谷部 集君） ありがとうございます。今の点について、ご意見、ご質問、ありましたらお願いします。いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（長谷部 集君） 次の総務はいつでしたっけ。

○書記（山岡広司君） 6月1日です。

○委員長（長谷部 集君） 6月1日に総務でその件をまとめますので、その後、また最後にその他で次回の改革の日程を決めますけれども、1日以降に改革の運営委員会を開いて、ここで決まるという流れになります。

次に、今年度の、議会の対話集会といいますけれども、今年度の市民と議会の対話集会の実施方法について、議員の皆様のご意見をお願いしたいんですけれども、先ほど、赤澤委員からも話があったように、各地区に出向いていくほうがいいのではないかというご意見も、いろいろな議員の皆さんからもそれとなく聞いているんですけれども、その実施方法ですね。それとあわせて、冒頭、議長からも話があったように、この議会改革で、前年度は対話集会に追われて、議会改革として進めなければいけない案件がほとんど進まないような状況だったので、今年度は、改革が主になるのではなくて、何か違う組織をつくって、例えば実行委員会みたいなものをつくって、そちらのほうで動いてもらうということも含めて、今年度の対話集会の実施方法について皆さんのご意見をいただきたいと思います。

何かご意見はありますか。ざっくりばらんに、細かく言っていただければと思います。

清水委員。

○委員（清水正二君） 以前から、対話集会についてやるということと、議会改革特別委員会の課題のいわゆるというものに関して、この特別委員会の中で対話集会に臨むということは、ほかの改革について議論もできないし、いろいろな、これから進展するというふうな形のもの、の捉え方ということもできないというふうなことが言われていたわけですよ。

やはりそういった中で、対話集会においてはですね、私たちの会派もそういう意見なんですけれども、対話集会の特別チームというか、そういったものを議会全体の中で組織して、

議会改革特別委員会というのは、いわゆる出された改革の中でもって議論して、それに対して改革ができるものは答申としてやるというふうな形が望ましいのではないかというふうに思います。

私個人としても、やはり対話集会は対話集会という形の中で進んでいったほうが、議会全体としてもやっぱりいい。そして、私たちもいいと思います。昨年ですか、藤枝市へ行ってきたんですけども、そこでもやっぱり対話集会が出て、結果的には、人口的には本市よりも倍くらいある市なんですけれども、結果としては、対話集会をしても、私どものやっている数字とほとんど同じ形の中で推移している。そういった公開度のランキングの中でも、結構いいところに行っているんですね。我々の議会改革議論の中で、基本条例は作っていませんけれども、どっちかという甲斐市のほうがそういった点ではいろいろな公開度とかというものを見ていると、進んでいるような形。そういったことを考えていっても、やっぱり市民の中で、議会の捉え方というのは、議会全体としてそういうふうな形で取り組んでいったほうが、対話集会としても、いい成果が得られるのではないかなというふうに思いますけれども。

○委員長（長谷部 集君） ありがとうございます。そのほか、意見がありましたらお願いしたいと思います。

では、話を絞って意見をお願いしたいんですけども、清水委員からも話があったように、今年度も昨年度と同様、改革が中心となってやるのか、または、先ほど私が言ったように、実行委員会みたいな別組織をつくって、そこを主にやってもらうのかという件に関しては、皆さん、いかがでしょうか。

○議長（有泉庸一郎君） 今、いろいろお話が出ておるんですが、ここの改革特別委員会のメンバー抜きで、他の残った人たちにとっても、恐らく、僕は、今までの経緯から見ていると、前へ進まないような気がするんですよ。だから、ご面倒、いろいろ、あると思いますけれども、ここのメンバーがある程度入って、ここのメンバーになっていない議員さんに、方々の議員さんに協力してもらうような形をとらないと、余り、これの別組織をつくっても、僕は機能しないような気がするんですよ。それで機能するんだったら、改革委員会なんていうのがもともとなくても……余り言い過ぎるとうまくないだろうけれども、そんな話になってしまうので、ある程度的人数でも、ここがやっぱり中心にならなければ前に進まないような、僕は気がするんですけども、その辺はどうなんでしょうかね。

○委員長（長谷部 集君） 樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） 特別委員会やはり、市民の対話の方向性を決めていくということがほとんどの役割だと思うんですね。あとは、もちろん特別委員会のメンバーも入るとおっしゃるでしょうけれども、できるだけ大勢の議員さんに、例えば、地元の、例えば、篠原の議員さんに入ってもらおうとか、そういうことを考えながらやっていったらいいかなと、こんなふうに考えますけれども。

どういうことをテーマにするかというのも一つあるんだけど、部落の皆さんの要求を中心に考えるというのが基本ですよ。

○委員長（長谷部 集君） 各地区に、前回の下今井のように出向くという形だとすれば、今、樋泉委員が言ったような形になる……

○委員（赤澤 厚君） 結局、地域へ行って、当然、そういった要望も出るし、結局、今やっている議会の改革のこの後、進め方とかそういったものを説明できたり、議会に対して要望も恐らく出ると、とにかく地域のそういった、道路の要望も若干あるかもしれないけれども、議会に対して何か住民がどうおもうか、どれだけの思いがあるか。直接聞くということが一番いいと思うんだよね。我々がね。だから、余りテーマを絞ってというよりも、本当に対話、ひざを交えて、対話するという、オープンで対話をするという形のほうがいいのではないかな。地域へ行って、余り絞ってしまうと、逆に、全体で、この前、第1回もそうだけど、できるだけ話し合う時間をとったほうが、余り我々が一方的にこれだと言うより、ある程度整理はするけれども、ある程度、話は、住民の意見、考えていくということも必要じゃないかと。この前言ったとおり、すぐそこで、すぐ、はいということでは答弁ができないことがあるかもしれないね。それはいろいろな面でまた追って、こちらのほうでできるものは区長さんを通して返答するとか、そういうところまで対応できると思うので、地域へ出て、不利益はない。議会特別委員会で、基本は1年あるね、まだ任期は。2年任期だから、今はね、基本的に。

議長が4年任期。議長だけは交替になって、我々は特別委員会を開いたんだよね。だから、基本的にいろいろな面を余りできない。26検討項目があるわけだけれども、とてもとてもできるわけないんだけど、ある程度絞った中で、じゃ、対話集会を設定してやるのか、どうするのか。対話集会、今年度はやるのかというと、それもなかなか正直言って、いくつも事業をやるということは大変な事。日程的にもそんなことも大変だと思う。その辺を検討したらどうですかね。対話集会ともう一つ事業をするのか、それとも、もう1年、対話集会を地域でするのか。

○委員長（長谷部 集君） 赤澤委員のご意見は、対話集会、今年度実施するのも、昨年のように、ここが中心となってやったほうがいいのかという考えですかね。

○委員（赤澤 厚君） うん、それで地域へ、要望のある地域へ行って、そういった意見で、フリーでいろいろな話をするのがいい。うちの会も、さっきもちょっと言ったんだけど、うちの会の議員さんたちはそんな考えがあったので、特別委員会のみんなの意見としてあとはみんなのいろいろな意見があると思うので。

○委員長（長谷部 集君） ほかの方はいかがですか。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 私はやっぱり、2つに分けてというか、対話集会は対話集会でやって、分けてやっていったほうがいいと思います。

15年、議員をやってきて、やっぱりこの議会運営委員会というのは非常に大事だと。それで、みんなそれぞれ選挙を経て、選任されてきていますので、確かに会派制はしているから、会派が第一で、大事なのはわかるんだけど、かといって、一番人数の多い会派中心で回っていってしまうような感じになってしまうわけですね、今のやり方だと。どんどん大きくなれば、そうなってもしようがないんですけども。そうするとやっぱり、少数例えば、2人以下の会派とか、または個人で会派を組まないとかという方の運営に関する意見を言えなくなってしまったら、非常に私は、個人的にですよ、問題だと思うんですよ。

だから、もしやるのであれば、私は議会運営委員会ですけども、いずれにしても、出向いてやっていくというのが今回あったわけですよ、成果が。しかも、そんなに別にテーマは設けなかったんだけど、ちゃんと向こうから一番これがというのを強く、何とかしてほしいというのが出てきたテーマだと思います。そんなところです。

○委員長（長谷部 集君） そうしますと、保坂委員のご意見は、ほかに何を依頼するのかというのちょっと置いて、対話集会に関しては、ここは別にしたほうがいいのかという。

○委員（保坂芳子君） そうじゃなくて。

○委員長（長谷部 集君） ここでやったほうがいいのかという。

○委員（保坂芳子君） ここでというか、ここの中ね。別につくるというのは反対で、この中で例えば、分けてやるのか、そのときによって、例えば、この竜王地域の方が中心になってやるのか、やり方はいろいろあると思うんですけども、ここを離れてどこかつくるというのは反対なんですけれども。

○委員長（長谷部 集君） この改革委員会の中で話を進めていくということ。

○委員（保坂芳子君） はい、それはそう。

○委員長（長谷部 集君） 議長、有泉庸一郎君。

○議長（有泉庸一郎君） 最初に、先ほどから、やり方というのは、赤澤委員からも出たように、コンパクトな感じで、小さいこういう自治会みたいのところへ行くというのはどうだろうというような意見を言っていましたよね。要するに、委員会でやっているような井戸端会議的な発想だよね、あれの資料は前にも皆さんに配ったのがあったよね。あんなようなものが参考になるのではないかなと思うんだよね。あれはどんなような議員、たしか地元の議員と委員会からピックアップして行ったような、あるんだよね。

○委員長（長谷部 集君） そうですね。

○議長（有泉庸一郎君） 後でもいいけれども、あれば、そういうものを参考にしてね。結構、昭和なんかは有効に、効果的にやっているようだからね、対話集会みたいなことをね。だから、そんなものも参考にしてみたらどうかな……

○委員（清水正二君） 要は、対話集会、いろいろな議会改革の中で検討する項目がある中、今、対話集会の関係ではやる形なんですよね。それを、対話集会だけに我々が議会改革一遍に行くというよりも、ほかのものも議論していきたいというふうな、そういう考えなんですけれども、それをするにはどうするかということなので、基本的に議会改革の中でどの程度もんで、対話集会の中の方向性をどういうふうにしていくかということは、これはやるんですけれども、対話集会そのものをやっていくのに、やはり議会改革の委員も含めて、議会全体として、そういうふうな形の中で、中の、どう言ったらいいのかな、チームというかね、そういうふうな形でもって、対話集会をもんでいくというような形。だから、当然入るんだけど、議会改革のメンバーも含めた中で、2つつくるというのじゃなくて、対話集会としてのチームをやっていく。方向性については、これから議論をしていくわけですが、自分の中の考えであれば、議会改革である程度の方向性を出して、そこにやっていくというふうなことをすれば、両方の課題というか、今からやっていく検討項目との両方がある程度のことを議論することも可能ではないかなというふうに思うんですよね。

だから、当然、対話集会の中でも、今までどおり、大きく地区別にやっていくのか、一つの自治会とか、ある程度の連合した自治会の中に出向くのかということは、当然この改革委員会の中でやっていく議論であり、どっちが市民に理解してもらえるかという方向になるんだと思うんですけれども、対話集会そのものに限っては、そういうふうな方向というのは、当然ダブってくる、議会改革とそういうふうに両方やるわけじゃなくて、それは平等的な感

覚でもってやっていけば、同じように負担をすることも可能ではないかなというふうに思う。
議会改革特別委員会で全部対話集会のお膳立てをして、議員全体の中でもって動くとか。

○委員長（長谷部 集君） 米山委員。

○委員（米山 昇君） 対話集会をどうするかということで、今、話題、関係になっていますが、うちの会派では、これについてまだ結論が出ていなかったよね。個人的な考えみたいな形になるかと思えますけれども、前年度2回やりまして、1回が全体、もう一回が地域へおとりてということですが、私個人とすれば、地域において複数回、3回なり4回なりやって、そして、テーマはそんなに細かく決めずに、地域の課題とか、あるいはまちづくりについてというような形で、複数の地区ですね、一つの自治会だけではとても難しいと思えますが、ある程度の地域のまとまりの中でやったらどうか。この間のように膝を交えてざっくばらんに話し合いとか、意見を出してもらったり、こちらも出したりというような形で進めるのがいいのではないかなと思います。

やり方については、今も全体でとか、この中でというような話が出ていますが、ここだけでやるという、2回目のときは、ここだけにプラス1期生というんですかね、1期生の方も一緒にやっていただいたのですが、やっぱりやるのは全部でやるべきであって、ただし、組織をつくってということになると、これはまた大変ですから、この会である程度の方向性とかを決め、どことどこでやるのかというようなことは決めて、そして、やるごとに、その地域の議員さんとかそういう方たちで、そこの地区の実行委員会とか、そういうものをつくって、そこである程度責任を持ってやってもらうというふうにしないと、ここだけでそれをやると、ほとんど先へ進まないとか、ほかの課題について検討する機会がなくなっちゃうということもありますので、そんなような形で進めたらどうかというふうに思っております。

○委員長（長谷部 集君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） ほかにやっているのでは、自治会でやるときに、自治会の方にも役員の方とも、1回話し合うみたいな形を持っているところもあるんですよね。自治会の役員さんがいますよね、自治会長とか、そういったところに一応、打ち合わせみたいなものを行っているところもあるんですよね。そうすると、さらにあれかなと思うんです。どこの自治会あれですかね、自治会のかたまりみたいなものはあるんですかね。

○委員（米山 昇君） ほとんど自治会のブロックがあるから。

○委員（保坂芳子君） やりたいところをとるというのはできるんですかね。やってみたい自

治会。

○委員（米山 昇君） 言えば出ると思う……

自治会というより、ブロックになっているから、少なくとも幾つかのブロックでもってあるから、例えば、竜王地区なら竜王地区で、どこかでもってやってもらいたいとか、やってほしいとかという希望がありますかというのをとれば、ある程度まとまってくると思いますけれどもね。うちの所でやろうとか、やってもらいたいとか。

○委員長（長谷部 集君） いろいろなご意見を今、いただいたんですけども、私が個人的に集約をさせていただくと、ちゃんとした集約になっているかどうか分からないですけども、基本的にはこの改革の委員会で場所とか日程とかを決めていくと。それが煮詰まった段階で、やる場所とかやる地域とか、そういうものに合わせて、それをするメンバーを決める。それで、その決まったメンバー、もちろんこのメンバーも入りますし、先ほど言った竜王のどこどこであれば、そこの関係している議員、地域の議員さんにも入ってもらったりして、実施の。その打ち合わせというか、具体的なことを煮詰めることについては、改革の委員会ではなく、その実施グループの中でやっていくと、そんなようなご意見だなと思って聞いていたんですけども。

副委員長。

○委員（清水正二君） 先ほど、米山委員が言われたように、改革からもんで、当然、今までもんな中で、かなりもみ込んだ中で、実施するときには、委員も率先してやったわけですよね。それと同じように、今回、早い段階でやるようにすれば、いろいろな細かいところとかそういったことを、米山委員のいう実行委員会、そういうふうにしてやっていけば、今言われることがスムーズにいけるのではないかなというふうに思うんですね。それを任せてしまえば、我々もある程度、この課題に対する検討の時間も出てくるのではないかなと思うので、当然、今までもそっちもダブることも当然ありますよ。今までも、全員の議員が分担をするような形でもって割り振っているのです、そういう形をとれば、お互いに負担で平等になるので、だから、考えとすれば、米山委員から出た、今までも同じような中でも、実行委員会という形の中で、それを早い段階にそういうふうにしていけば、可能じゃないかなというふうに思いますけれども。

○委員長（長谷部 集君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） ちょっと聞きたいんですけども、この間の対話集会は、そのための会合は何回ですか。大体、年間何回……

○委員長（長谷部 集君） この改革の委員会がやるたびに毎回それをずっとやっていましたよね。この改革委員会は月一はやっていましたよね。

少なくともそのぐらいはやっていたということだと思います。

○委員（保坂芳子君） 半分ぐらいでできれば。

○委員（清水正二君） 去年の段階だと、これを検討する課題を挙げて、それをやって、あとは対話集会の話でしたよね。

○委員（保坂芳子君） 対話集会自体の回数はどのぐらいなんだろう。

○委員（赤澤 厚君） 決まってからね。

○委員（保坂芳子君） 決まってから、決まるまでも……

○議長（有泉庸一郎君） 別の委員会とかという話がでただけけれども、当然、ほかにも十何名いらっしゃるわけですね、議員さんが。全員協議会というのは、いずれにしたってみんなが集まるわけだから、全員協議会の中で、わずかな時間でもいいから、毎回、議会改革特別委員会のための時間をやっぱりちょっとでもとってもらって、その中で、特別委員会が提案して皆さんと話をするというような形になれば、全員入ってもらえるわけだもんね。そういうことをしながら、何かこの、特別委員会というんだから特別委員会なんだろうけれども、この人たちだけでどうのこうのじゃなくて、議会としてやっぱりやっていかなければならない話だからね。

だから、全員協議会の中で、僕は少しぐらいの時間なら、そんなにえらく長い、長時間でなくていいと思うんだよね、論議でも何でも、この特別委員会、こんなような話って、対話集会の話にしても何にしてもやっぱり、こっちから投げかけるような、そうして一緒にほかの、この委員になっていない皆さんにも、人ごとの話じゃないんだから、それが本当は議会なんだけれどもね。そういうふうにしていってもらいたいというのが、僕の個人的な本音ではあるんだけれども、是非そうにして、そうすれば、この特別委員会の人たちだけがやるということじゃなくて、みんなもやっぱり、そういう意味合いでやっているんだということで、それで、その延長上にその対話集会なり何なりが入れば、非常にいい話になるのではないかなと思うんだけれども。

だから、そういう意味では、全員協議会というのは決定機関じゃないとはいうんだけれども、皆さんに周知するという意味合いじゃ、非常に貴重だと思っているんですよ、みんな集まってくる場だからね。だから、そういうことも、その他でも何でも、そんなに長い時間は要らないと思うんですよ。こっちから、この委員会からまた、委員長さんに提案してもらおう

とか、こんなような委員会の話が出て、みたいな話を皆さんに、会派によって、それは皆さん、会派の大会、出ているから、会派で周知してもらっているとは思いますが、やっぱり全員協議会で皆さんがいる中で話をするのとまた違うような気がするんですよ。というような、個人的にはそう思いますけれども、そんな意見でしょうか。

○書記（山岡広司君） まず、1回目、全体でやるときには、最初からというのもありましたから、改革として5回ほどやっております。ただ、これ以外に、委員長が来てパワーポイントをつくったりとかという作業は、これはもう別としてですよ、全体が集まってやったとして、大体5回ぐらいですけども、下今井についてはもっと少ないですね、2回。もうできていますから、ここで一回決めて、あと、リハーサルをしたという状況で、おおむね5回ぐらいはやらなければならないかなと思います。

○委員（保坂芳子君） 2回じゃ決まらない。

○書記（山岡広司君） 内容によりけりだと思うんですが、前回の下今井みたいに、もうパワーポイントが決まっていた。パワーポイントはこれを流します、それ以外には自由討議という形であれば、2回ないし3回ぐらいでいけるのかなとは思いますが。

○委員長（長谷部 集君） 前回の下今井に関しては時間がなかったもので、この委員会の中で皆さんにお任せをいただいて、正副委員長と事務局のほうで進めさせていただいたという。

○委員（保坂芳子君） 全体で何回やりましたっけ。

○書記（山岡広司君） 5回。

○委員（保坂芳子君） 全部、1年間。

○書記（山岡広司君） 11回です。

○委員（池神哲子君） 地区ではやっていない。

○委員（清水正二君） 全体としては、敷島、双葉、竜王、2回ずつやっているから、全体としてはやっているんですね。ただ、その方向性、最初のほうのは、この前も言ったんですけども、いわゆる地区の中でやっていくのと、大きくやるのと、来てくれる人はそんなに人数は変わらなかったんですね。だから、やり方としては、その中でもってどういうふうになそれを広げていくかということで、私自身は、議論としてこれからやっていかなければいけないんですけども、私としては、地区で細かくやっていったほうが、議会のそういう意義というか、議員にしても、どういうふうなことをやっているかということが市民に見えやすくなるとは思っているんです。

やっぱりそういうふうなやり方によって、さっき言われる、我々議会改革として議論をや

ったり打ち合わせをしたり何かしているという時間をいかにするか、省いていくかということですから、だから、いわゆる、今いうような、そういうふうな形で進んでいくのか、どうするかということ。それで、それから先に対話集会をどういうふうにしていくかということの議論を各自していかないと、両方を先にやっていってしまうと、進まないと思うんですね。だから、どういうふうにそれをしていくか。だから、議会全体としてそういうふうな流れ、皆さんの労力を出していくかというふうな形で行くのか。

○委員（赤澤 厚君） 今回、第1回なんですね、今回は、今年度は。基本的に、前年度は、前の2年続けて対話集会をやったと、その反省点なりいろいろなものを踏まえた中で、また去年もやろうということになったんですね。だから、まず第一に、ことしもそれをやるんだということは決定してもらわないと、そして、やると、それにしても地域へ行くのか、合同でやるのかということについて、これはあくまでも第1回だから、ことしの特別委員会として、これをまた新たにやるのかどうなのか、それともまず、決めたほうがいいのではないですか。それで、やるとなると、地域でいろいろな意見があるから、さっき委員長が言ったとおり、地域へおりにってやってもいいという意見も出ているので、それで、さっき保坂委員が言ったとおり、それ以外に何かもう一つ、違ったものもやるのかと、いや、これ一本でいくのかと、この辺も検討していかないと、まず、今年度の方向性が見えてこない、議会運営委員会として、そして、それをやって、今度は1年間、どういう形で行くということが、スケジュールを組んでいくことになると思う。

○委員長（長谷部 集君） そこで、ことしの方向性を今皆さんにお聞きをしているんですけども。

○委員（赤澤 厚君） 対話集会をやることはどうなのか。

○委員長（長谷部 集君） 対話集会はやることになっていますよね、もともと。

以前話をしたときに、今後ずっと続けていくということで集約ができていますので、やるということを前提で。

それは、やるということでいいんですね。

やるに当たっては、昨年のように、ここの改革で中心にならずずっと対話集会をやっていたのでは、先ほど保坂委員が言ったようなこととか清水副委員長が言ったような、ほかの案件がこの改革で取り上げることがなかなかできない、時間がとれない。であれば、冒頭、私が提案したのは、別組織で改革から手を放してやってはどうですかという話をしたんですけども、それについては、ここからは手を放さないほうがいいのかという皆さんのご意見が多か

ったなと思うものですから、議長もここから手を放したのでは進まないだろうというご意見だったので、それであれば、この改革が中心になって、昨年のように最後の最後までこの改革で煮詰めるのではなく、ある程度大枠だけはこの改革の委員会で方向づけをする、日程とか場所とかメンバーですね、は決める、それが決まった段階で改革から手を放して、改革委員会で今後進めるのではなく、先ほど米山委員が言ったような、実行委員会みたいなものをつくって、その実行委員会の中で対話集会の具体的なことを詰めていくという作業でどうかという集約なんですけれども。

保坂委員。

- 委員（保坂芳子君） 最初、どこでやるのかを決めるということと、それから、やり方なんですけど、パワーポイントはやっぱり使うという。そこまで毎回違っちゃう。本当にどうなんですかね。
- 委員長（長谷部 集君） そこまでまだ進めていないから、後回しとして。
- 委員（保坂芳子君） でも、パワーポイントをつくるのがすごく大変なんですかな。
- 委員長（長谷部 集君） それを全部、例えば実行委員会にしていけば、そういうふうな形の……
- 委員（保坂芳子君） それは実行委員会で決めるの。
- 委員（清水正二君） パワーポイントの中身をやっていくとか。
- 委員（保坂芳子君） だから、パワーポイントをここでやるではなくて、考え方で、パワーポイントと対話というふうな形でやる……
- 委員（清水正二君） 要するに、対話集会のテーマとか内容によって、やっぱりパワーポイントのほうを使ったり、それはまた後の議論になるかと思うんですけれども、例えば、今までどおり、じゃ、もう一回、敷島、竜王、双葉をやるのか、甲斐市全部でやるのか、対話集会を一回やって、またその地域に出るのか、それとも地域だけにしぼるのかと、これはまた次の議論になっていくので、それによってやっぱり、パワーポイントを使うかどうかということも変わってくるじゃないですか。
- 委員（保坂芳子君） そこまで決めてしまったほうがいいと思うんですよね。形を決めると、また、考えて決めるまでにも時間がかかるのでね。ここで、この形、型というのを決めれば、大体流れられるかなと、会場とかも。
- 委員（清水正二君） 全体の中で、我々だけじゃなくて、やはり議会改革だから、全議員がそういうふうな意識を持つわけだから、平等的に分けていったらどうかという。

- 委員（保坂芳子君）　そこまで落とすと、なんか大変だなという感じ。
- 委員（清水正二君）　そこは我々も皆、同じことをやっていくわけですね、当然ながら。
- 委員（保坂芳子君）　何回も何回も、皆さんそれぞれ忙しいわけだから。今まで11回ですよ、年間、それでも結構圧倒された感じ、それも倍になると22回なので、2週間に1回するような形になれば、そのぐらいできると思うんですけれども、やっぱり少ない回数で効率的に、しかもやりたい目的を達成するにはと考えると、今回は、だから、同じ型で、例えば、双葉をやったから竜王と敷島だけ今年度2回、対話集会に関しては2カ所だけで、あとは改革について、ここはそっちを中心にやっていくみたいな感じにしないと。何回もなくなってしまふ。
- 委員長（長谷部 集君）　そうなると思います。
- 委員（保坂芳子君）　皆さんどうでしょうか。選挙がないならいいんですけれども。
- 委員（清水正二君）　でも、ある程度、議論をしていく上で、いろいろなものを検討した会議をしていく上で、やっぱり時間的に数を少なくするとかというの議論というのはやっぱり出てこないと思うんですよ。今、この議会改革とかいろいろな、世の中の中で、議会の中で、例えばその中の委員会だとかそういったことですよね。そういったことをやっぱりやっていくということは、余りにもそういうものを制約していくのではなくて、やはりそういう形のものにセットしていくための議会改革だというふうに自分は理解しているんですけれども、ただ、負担というものを、我々の議会改革がやらなければならない負担というものを、どういうふうにして議員全体の22人の中に分けていくかということが、そのほうが大事なかなというふうに思うんです。今言われた、11回やって、我々はその11回の期間をやっているわけですよ。それはやっぱり、ある程度その中でも、対話集会の部分だけでも、そういうふうにして全体の中で負担を公平に分け合っていたらどうか。当然、公平負担なわけですよ、今までもそうだったから。
- 委員（赤澤 厚君）　とりあえず、議会改革特別委員会として今やるべきことは、今、対話集会、この間も言われたタウンミーティングとか言っていたけれども、結局あそこでも、改革案についても、ほとんど今、甲斐市でやっているような改革なんです、ほとんどね。
- 逆に、そっちのほうが進んでいるかというぐらいの、実はこっちのほうが結構、議会の改革はしているんだよね。基本的にそれは、住民との対話集会というの、外部委員会として、そのまま、第一の我々の事業だけれども、なにか検討項目で、最初26、挙げてもらったやつも、あとはほとんど自分たちでのもので、議会改革で。政務調査費とか、いろいろな委員

会の選出方法、自由討論とか、あとは自分たちのことだから、それは同じ、自分たちの取り組みでやれば、それなりの会議を持てば、住民をまじえてやるわけじゃないから、そんなに基本的に難しくない。自分たちの意識が、考えがあればそれで通ると思うんですよね。それは、あくまでも全員の人たちの意見も、あくまでも我々の考えとしてなくても、あくまでも議員の皆さん方の、やっぱり、ある程度理解していただかないと議論できないですよ。さっき保坂委員が言ったとおり、議運の委員の選出だって、ここではいいといっても、全員協議会では、そんなことは必要ないとか、今までどおりでいいと言え、難しい。議会運営委員会として一つ、提案はできるんですけどもね。

○委員（赤澤 厚君） 対話集会をやると。あと、基本的に、これは我々は、議長の諮問機関で、議長の考えでこの議会特別委員会を立ち上げてあるんですよね。今、有泉議長として、ある程度の考えがあるのなら出していただいて、それをここではある程度するというのも、どれも、正直言ってなかなか、テレビの中継とか、いろいろな問題が、金もかかるようないろいろな問題も、これはすぐできる問題じゃないので。

○委員長（長谷部 集君） 対話集会のことをまず決めていただければ。

対話集会をどうするかによって、あく時間が決まるわけですよ。対話集会に割かなければいけない時間が物すごく多いのであれば、ほかのことなんか何もできないじゃないですか。どうしていくかという、その部分ですよ。だから、保坂委員が言うように、集まる回数を少なくしてということであれば、一番簡単なのは、下今井と全く同じやり方を、ことしはどことどこでやろうと決めちゃえば、もう話は終わりなんですよ。そういうやり方で皆さんいいかどうか。

○委員（赤澤 厚君） そんな難しく考えなくて、あくまでも意見交換だから、対話集会だから、今までの議会の改革はこういう歩みがあったと、当然いろいろ皆さんに知ってもらうけれども、それ以外、余り難しく考えないで、対話集会で、さっき議長が言ったように、商工会がやっているような、ざっくばらんに話し合える場をつくれたほうがいいのではないかな。余り堅苦しく型にはめてやるよりも、逆に。そうすれば、我々の負担もそんなにはないし。

○委員（樋泉明広君） 全体の対話集会は竜王地区でやりましたよね。

全体が竜王地区というか、会場がたまたま竜王の住所にあるだけであって、あれは甲斐市全体で。

場所によって、入る人数もあるというか、その地域に重点を置かれれば。やるのであれば、

あと敷島、竜王。

○委員長（長谷部 集君） そうしましたら、前回の下今井でやったのと同じような形で、こ
としは、今、敷島と竜王という話が出ましたけれども、双葉は一回やったのでということで
あれば、竜王と敷島とどこかの地区で、下今井でやったのと同じような形でそれをやると。
そうすれば、先ほど保坂委員が言ったように、もむ回数は少ないですよ、もう決まってい
ますので、でき上がっていますから。

○委員（赤澤 厚君） 今回はそれで、私は。

○委員長（長谷部 集君） それは、だから、全議員が参加できるようにね。

○委員（赤澤 厚君） その割り振りはこっちがまたやって。

○委員長（長谷部 集君） 前回の下今井を見ていると、1回の会場で10人ぐらいいれば、
いろいろな役割がちょうどうまく割り振れるので、2カ所ということであれば、議員をそっ
くり半分にわけてしまって、やるというのもいいかなと。

○委員（清水正二君） 大体意見、うちもそうだけれども、自治会へ行っても、やっぱり年間
通して100人、小さくやっても、人数が50人ずつ集まれた100人ですよ。そういったもの
であれば、コンパクトにやっていけるということであって、我々もそれほど負担がかからな
くてやるということであれば、地域、そういった自治会の連合地域、そういうふうな形の中
でやれば、かえって我々も身軽でもっていろいろなことができるし、やり方とすればいいか
なと。そういった、来てくれる人もそんなに変わらないと思うので、そのほうが膝詰めで
できるので、議会との、やっぱり議会というものを理解してもらうのには一番いいかな、それ
が連綿と毎年続いていけば、本当にいい結果が出てくると思うんです。

○委員長（長谷部 集君） そうすると、その地域、今、敷島、竜王でなんていう話が出てい
ますけれども、その決め方、先ほど話が出たように、向こうから手を挙げてもらうみたいな
話が先ほど出ましたよね。その辺については。

○委員（保坂芳子君） 投げかけ。

○委員長（長谷部 集君） 投げかけの方法はいろいろな方法があると思うので、それで投げ
かけて、手を挙げてくれたところに行くのか。

○委員（保坂芳子君） 議員さんのいないところをやる。

○委員（清水正二君） そこから1つやって、それから広げていったらいいと思う。せつかく
の機会だから。

○委員長（長谷部 集君） 前回のことを思い出すと、議員がいなかった、最終的には下今井

になったんですけれども、そこと一緒に候補に挙がっていたのが敷島の北部とか、前回そういうのも話題に上がりましたよね。そういったやり方のほうが、いいのでは。

○委員（赤澤 厚君） 北部は正直言って、いろいろな問題が抱えているので、空き家も高齢化もいろいろな問題がちょっと、ありますので。

○委員（保坂芳子君） 集まるのが大変じゃないですかね。

○委員長（長谷部 集君） そんな人数じゃないから、高齢者のいつもの間をもらってもいいし。

○委員（保坂芳子君） 例えば、北部でやるとしたらふれあい館を使って。

○委員（赤澤 厚君） 北部でやるとなれば、我々は地元だから、吉川とかの自治会長に相談しながら、どこがいいか、それはこっちで決めさせてもらう。基本的に。敷島でやるということになればね。

○委員長（長谷部 集君） そこから先の細かい具体的なことに関しては、分かれた、敷島だったら敷島の担当の人たちがどうやってするかというのを決めていくということでもいいですね。

○委員（保坂芳子君） それは議員全部ですか。

○委員長（長谷部 集君） 敷島を担当する、2つに、議員を半分に分けるじゃないですか、その半分に分けた、敷島を担当する人たちの中で、車を回したほうがいいのかということ、そこで決めてもらえればいい。

〔発言する者多数〕

○委員長（長谷部 集君） 改革としてはそういう流れの報告をして。

○委員（赤澤 厚君） 全協で1回。

○委員（清水正二君） そういう形でことしやりたいということで、ある程度方向性が出た後でかければ、報告すれば。

○委員（赤澤 厚君） 報告すればね。

○委員（米山 昇君） そこで決めることじゃないけれども。

○委員長（長谷部 集君） せっかくここまで話が進んだので、時期的なものも、もし意見をいただきたいなど。

〔発言する者多数〕

○委員長（長谷部 集君） 今までのように大きい地域のあれじゃないから、狭い地域だから、いろいろなこともいろいろできるのではないですかね。

- 委員（清水正二君） 足元の明るいうちに。
- 委員長（長谷部 集君） 暖かいというと、暖かい感覚はどのぐらいですか、11月ですか。
- 委員（保坂芳子君） そんな遅いの。
- 委員長（長谷部 集君） そうすると、今度、暖かいじゃなく暑いになってしまいますよ。
- 委員（清水正二君） 10月ぐらい。
- 委員（保坂芳子君） ほかのことを検討する時間を後にまとめて持つためには、その2つを早い時期に。
- 委員長（長谷部 集君） この会議からは手を放してしまいますから、もっと早い段階で。例えば10月でも。
- 委員（清水正二君） 今あって、6月議会じゃないですか。
- 委員（保坂芳子君） じゃ、7月とかさ。
- 改革委員会からは手を放してしまいますよ。後はそれぞれ2つに分かれたところで、具体的な打合わせを。
- だけど、改革委員会、離れるといっても、入りますよね。
- 委員（清水正二君） 敷島・双葉のほうは、じゃ、8月ぐらいで。
- 委員（米山 昇君） 一緒にやらないといけない。
- 委員長（長谷部 集君） 現実問題として、そんな早くできますか。
- 〔発言する者多数〕
- 議長（有泉庸一郎君） 相手を探すのに、時間がかかる。それを先にやらないと。
- 委員長（長谷部 集君） 敷島地区ができれば、敷島の議員さんがちょっと動いてもらって、北部であれば北部の区長さんをお願いをしてもらってアポをとってもらおう。竜王については、竜王の議員さんがどこにしようかを決めてもらって、アポをとってもらって、そこから、今度は向こうの予定もありますので、なかなかね、こっちで7月となると、そこから回覧も回さなければならない、というのと考えると、10月ぐらいをめどに動いていけばいいか。
- 委員（清水正二君） 9月の広報に出さなければ……
- 〔発言する者多数〕
- 委員（清水正二君） 10月までと決めておいたほうが、あれじゃないですか。
- 委員（保坂芳子君） 10月までね。
- 委員（清水正二君） 第1回。全部一緒にやる。
- 委員長（長谷部 集君） 同じ日じゃないですけども、時期的には同じ。

- 委員（樋泉明広君） 両方10月ごろでいい。
- 委員（米山 昇君） 9月、10月でも。
- 委員（保坂芳子君） そうすると、それぞれが動いている……
- 委員（池神哲子君） ここだと、竜王は誰が責任者とか。

[発言する者多数]

- 委員長（長谷部 集君） 竜王は副委員長がいます。

[発言する者多数]

- 委員長（長谷部 集君） まとめます。

前年度の下今井地区でやったのとはほぼ同じ形で今年度、2カ所で実施します。その2カ所は、敷島で1カ所、竜王で1カ所、その場所に関してはそれぞれの、敷島であれば敷島の議員さん、竜王であれば竜王の議員さんが区長さんと連絡をとっていただいて、日程を調整していただくと。その日程に関しては、10月に行います。10月は結構、週末がいろいろな行事が重なりますので、大変かなと思いますけれども、その辺で調整をしていただきたいと思います。

- 委員（米山 昇君） 実行委員会としては、竜王地区でやる実行委員会は竜王の議員さんがやって、敷島地区でやるほうは、敷島と双葉の議員さんが全員でやってください。親分は誰がやって、この間言ったように、広報係が誰で司会が誰でということは、そこで決めてもらうと。

- 委員長（長谷部 集君） 全く半分じゃなくてもいい……

- 委員（赤澤 厚君） ほぼ半分でしょう。

- 委員（米山 昇君） 竜王って11人か。10人か。

- 委員長（長谷部 集君） 竜王の議員さんは全部竜王で、敷島、双葉は敷島。

- 委員（米山 昇君） こういうところで、今言った親分とか何でもいい、決めてもらって、親分は敷島が赤澤委員、竜王は、清水副委員長。

[発言する者多数]

- 委員長（長谷部 集君） いずれにしても、ここのメンバーの人が頭をやってもらわないと。

- 委員（赤澤 厚君） 基本的に全員協議会のところで報告するでしょう。そこでみんなに報告して、その後すぐ、我々敷島の議員で場所はすぐ決めるから。それで、その方向で進めてくれれば。

- 委員（米山 昇君） 頭はあの2人になってもらうにしても、そこで決めたほうがいいと思

います。

[発言する者多数]

○委員（米山 昇君） ここでは内示にしておいて。

○委員（赤澤 厚君） 案みたいに。

○委員長（長谷部 集君） 改革からということで、案とすれば。

[発言する者多数]

○委員（保坂芳子君） テーマはないにしても、パワーポイントって今まで使いましたよね、それはどう……。

○委員（米山 昇君） それは、もう少し少なくていいと思う。

意見交換の場だから、意見交換の時間をとってね。この間のあそこのときも、始めるのは遅かったけれども、終わりも結構長かったね、予定よりは。それだけ交流はできたかなということ、司会やっていて、遅くなってしまったんだけど、そういう意味で、やっぱり交流は力もいるし、そういう形で、よそに出すものじゃないんだから。

○委員長（長谷部 集君） 一番最初にこの対話集会を始めたときから意見がやっぱり出ていたのは、議会のことを知ってもらいたいのでというのがスタートじゃないですか。議会の仕組みに関してだけはパワーポイントを使って、冒頭したほうがいい。

[発言する者多数]

○書記（山岡広司君） つくるものじゃなくて、今あるものがあるじゃないですか。それを使わないと、もうつくる時間はないから、その中でもし削るようであれば、削りますけど、新たにつくるのは難しい。今あるものを、短く皆さんが削るということであればいいですけど。

[発言する者多数]

○委員長（長谷部 集君） 下今井でいいと思う。議会のルールだけ。その前にやったのは、環境問題があるわけだけど、議会だけだったら10分くらい。

下今井の残っているから、時間わかりますよね。

○書記（山岡広司君） わかります。

○委員長（長谷部 集君） とってありますもんね。

○書記（山岡広司君） とってありますからね。

○委員長（長谷部 集君） 10分とか15分とか、そんなものだったと思いますけれども。

○書記（山岡広司君） 意見交換はやればやるほど、絶対長くはなる。長くとればもっと長くなるというのもあるので、ある程度の時間を決めないと終わらないのかなと思いますね。

○委員長（長谷部 集君） 幾らやっても切りがない。

○書記（山岡広司君） そうだと思いますね。

○委員長（長谷部 集君） 住民の意見とかそういうものを聞きたいというのが一つの大きな目的だけれども、住民に議会というものを知ってもらおうということもやっぱり大きな目的の一つなので、やっぱりそこは仕組みは、やったほうがいいかなと思います。

大分いろいろなことが決まってきましたけれども、きょうのところはそんなところでよろしいですか。

今決定したことは、6月の全員協議会のところで報告をさせていただきますので、それまでに会派でもし話があるようでしたら、こんなことになったということだけ伝えておいていただければと思います。

次に、その他に入るんですけれども、その他、委員より何かありましたらお願いをしたいと思います。

○委員（赤澤 厚君） さっき保坂委員から出たんですけれども。

○委員長（長谷部 集君） すみません、今後のことはその後にまたもう1個、その他で入りますので。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（長谷部 集君） そうしましたら、今後の議会改革運営委員会における検討に値する項目の一覧というものを今回の資料の一番最後につけさせていただいておりますので、それを見ていただきたいんですけれども、これは、昨年度の初めに皆さんのご意見を集約した表になるんですけれども、検討の時期が短期、中期、長期というふうになっておりまして、できればこの短期。中期、長期はなかなかちょっと難しい部分もありますけれども、この短期の中で、できればここから1つ2つをこの改革の中でまた検討を進めていきたいというふうに思っております。

結果の中で、保留となっているものもあるんですけれども、これは昨年度の段階で保留ということですので、今現在も保留ということではないので、その辺はちょっとご承知をいただきたいんですけれども、中には、議長車のことも保留になっていますけれども、議長車に関しても、車検が来年にもう迫ってきているということなので、去年は保留だったんですけれども、今年度はこのことについても決めていかなければいけない時期になっております。

そういうことも含めまして、議会改革委員会の中では、なるべく対話集会の部分を短くし

て、こっちのほうに進んでいきたいと思っていますので、皆さんのご協力をお願いしたいんですけれども、まず、皆さんにお願いをしたいのは、次回の改革委員会のときに、この中でどこを今年度やっていきたいかということを決めてきていただきたいと思います。もちろん、決めてきていただいても、また議論して、全員が違うものを持ち寄っても、全部はとてできませんので、当然、話をして決めていかなければいけないという状況になりますけれども、そういう流れにしたいなというふうに思っています。その件についてはいかがでしょうか。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 決算審査特別委員会による予算への提言とありますけれども、やりましたよね。

○委員長（長谷部 集君） そうですね。

○委員（保坂芳子君） これはもう成果ですよ。

○委員（米山 昇君） 19番でしょう。

○委員（保坂芳子君） 19番。

○委員（赤澤 厚君） これは、要するに、議会のときに出していくということですね。

○委員長（長谷部 集君） できているものもあるんですよ、今言うようにね。それだけ確認しておいたほうがいいですね。

○書記（山岡広司君） 私のほうから申し上げます。

まず、5番の議会改革の歩み、これは市民対話集会でパワーポイントでやっていますね。これは継続してやっていくということで、いいと思います。

10番、11番は、議会広報のほうへお願いしております。ホームページ、今年度リニューアルしますので、これはことしできるもの。11番ですね、議会だよりも、ページ数を少なくしたり、やっていますので、こちらもいいと思います。

あと、19番の決算審査特別委員会、これはやっていますけれども、今後もやっていくかということで、また、一応テーマを設定しております。

以上ですね。

○委員長（長谷部 集君） 4番の対話集会の総括も。

○書記（山岡広司君） それも、すみません。

○委員長（長谷部 集君） 2番の口の字形式での委員会というのは、今やっている、これがそうなんですか。これは、常任委員会をこうした形にしたいということですかね。

○書記（山岡広司君） こうしたいということですね。

○委員（保坂芳子君） 庁舎の中ではできるところもないですよ。

○書記（山岡広司君） 一応、録音の関係もありますから、どこの会場でもというのはなかなか厳しいですね。

3のアンケートもやっていますね。対話集会の後にアンケート。

○委員（保坂芳子君） もう一ついいですか。

○委員長（長谷部 集君） はい、どうぞ。

○委員（保坂芳子君） 委員会研修のあり方というのは、どんなのが出たんです。委員会研修の23番は、どういう意見でした。

○委員長（長谷部 集君） これは。

○委員（保坂芳子君） 全員で行くという。

○委員長（長谷部 集君） これは坂本委員と樋泉委員。

○委員（保坂芳子君） 委員会、どういうふうになったんです。2年に1回でしょう。

○書記（山岡広司君） そういうのも、なるべく考えてくれ。いや、多くする必要もないという、考え方なんです。例えば、任期中に1回とか、そういうのも検討事項の一つではないか。

○委員（保坂芳子君） この間、一緒に行ったんですよ。

○書記（山岡広司君） そういう会合も必要じゃないかということです。

[発言する者多数]

○委員長（長谷部 集君） そういうふうなやり方を検討していくという。

○書記（山岡広司君） その辺は結構、これに基づいて、やっていると思います。

○委員（保坂芳子君） やってどうだったのか。全員で行ってどうだったのか、また委員会の方がよかったのか。

○委員長（長谷部 集君） そんなところです。

○委員（保坂芳子君） わかりました。

○委員長（長谷部 集君） ですので、次回のために皆さんのご意見を持ち寄っていただきたいと思いますので、お願いします。先ほど保坂委員が言ったように、今もう済んでいるよという確認をしましたが、済んでいることをもう一度、それでよかったのか悪かったのか確認したいというのも、それも必要なことだと思いますので、それも含めて検討をしたいと思いますので、お願いします。

それよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（長谷部 集君） 次に、事務局より何かありましたら、お願いしたいと思います。

山岡係長。

○書記（山岡広司君） 次回の日程を決めていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

○委員長（長谷部 集君） 先ほど話をしましたとおり、6月1日に総務教育常任委員会が、先ほどの通学路の問題ですね、対話集会で出た意見の通学路の問題をしますので、1日以降で、今度、定例会もありますので、その16日までの間にということ、今、考えているんですけども、いろいろな予定を見ましたら、6月10日の水曜日がちょうどあいているときなんですよね。よろしければ6月10日に決めたいというふうに思っているんですけども、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（長谷部 集君） 6月10日、きょうと同じ1時半からですね。6月10日1時半から、またきょうと同じ形でします。

ほかにないようでしたら、これで終わりにしたいんですけども、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（長谷部 集君） 以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして議会改革特別委員会を閉会といたします。

ご苦労さまでした。

閉会 午後 2時43分